

第5回高等学校部会について

2016年6月27日に中央教育審議会教育課程部会の高等学校部会が開催された。

9:30から11:30まで文部科学省3階1特別会議室で行われた。

一般傍聴者は40名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 高等学校の教育課程の改善・充実について
- (2) その他

まず、事務局より資料3-1「総則・評価特別部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会における議論の取りまとめ（案）」について説明があった。

主な内容は以下の通りである。

1. 「社会に開かれた教育課程」の実現と、総則を軸とした教育課程の総体的構造の可視化
2. 学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現
3. 何ができるようになるか（教育目標と育成すべき資質・能力の明確化）
4. 何を学ぶか（各教科等を学ぶ意義と教科等横断的な視点を踏まえた教育課程の編成）
5. どのように学ぶか（指導案等の作成と実施、学習指導の改善・充実）
6. 何が身に付いたか（学習評価の充実）
7. 子どもの発達をどのように支援するか（学習活動や学校生活の基盤作り、キャリア教育、特別な配慮を必要とする児童への指導等）
8. 実施するために何が必要か（家庭・地域との連携・協働、チーム学校等）
9. 小・中・高等学校それぞれにおける諸課題への対応
 - (1) 小学校
 - ① 小学校教育の基本と、低・中・高学年それぞれの課題
 - ② 言語能力の育成と国語教育、外国語教育の改善・充実
 - ③ 情報技術を手段として活用する力やプログラミング的思考の育成
 - ④ 各学校における「カリキュラム・マネジメント」
 - ⑤ 学校段階間の接続
 - (2) 中学校（整理中）
 - (3) 高等学校
 - ① 高等学校教育の基本
 - ② 各高等学校において育成すべき資質・能力とカリキュラム・マネジメント
 - ③ 卒業に必要な単位数や教科・科目の構成等

10:00 頃から取りまとめ（案）の前半（1～8 まで）についての意見交換が行われた。

評価（何が身についたか）が重要であり、新たな課題を見つけ次の成長に役立てるためのものという認識・キャリア教育との関連の重要性を強調すべきという意見や、その自己評価のツールとして「キャリアパスポート」「キャリアレポート」など複数の仮称の混在を統一すべきとの意見があった。

授業研究の取り組みが評価されているという記述に対して、その一方で授業 1 回ずつの議論にとどまり長期的なカリキュラムの中での位置づけについての議論がされていないことを記述すべきだとの意見があった。

学習すべき知識については小・中・高のつながりが系統的にわかるような資料が必要だとの意見があった。

そして、改訂の趣旨について広く国民への周知をはかる必要があるという点をもっと強調すべきだとの意見があった。

また、高校までの教育を変えていくことで、大学教育へ影響を与え変化させるという意識でしっかり実行してほしいとの意見があった。

10:45 頃からは取りまとめ（案）の後半（9）についての意見交換が行われた。

国語教育の改善・充実について、小学校だけでなく、中・高においてもその内容を取り上げるべきだとの意見があった。また、総合的な探究の時間が最も重要な科目であるのだから、それが一目でわかるような示し方が必要だとの指摘があった。

高等学校は地域社会とのつながりをもっと強くしていく必要があるとの意見もあった。

また、高等学校では学校独自のカリキュラム編成が求められることから、学校を評価する第三者評価機関が必要なのではないかとの意見があった。

今回で本部会での審議は最終とする。7 月 1 日までの一週間はメール等で委員からの追加の意見を受け付けるが、最終的には主査一任とする。今後は、小学校部会・中学校部会の審議内容と合わせて 7 月 7 日（木）の総則・評価特別部会で最終的な取りまとめ（案）として議論し、審議まとめへ向かうこととなる。